

JEMAI 環境ラベルプログラム 第5回アドバイザーボード 議事要旨

日時：2016年6月6日（月）13：00-15：00

場所：産業環境管理協会 AB 会議室

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町 2-2-1

アドバイザーボード設置・運営規程（JR-02-01）に基づき、アドバイザーボードを開催し、下記の協議を行った。

1.2013-2015 年度中期行動計画の振り返り【報告事項】

事務局から 2013-2015 年度中期行動計画について、自己評価を含む結果の報告があった。

エコリーフは目標件数を達成。CFP は大幅未達となった。海外制度での EPD 活用により輸出製品分野でのエコリーフが拡大。情報交換を積極的に行い、海外対応においては一定の成果を得た。反面、国内需要が主流の分野では、具体的な成果は得られていない。消費者向けの普及活動については、継続的に行っているものの、普及速度は非常に緩やかとなっている。

2.環境情報開示事業に関する動向【報告事項】

事務局から、JEMAI 環境ラベルおよび LCA に関わる国内外の動向に関する報告が行われた。

国内政策においては、エネルギー、温暖化対策関連の政策の中で、CO2 削減が謳われている。産業界では、低炭素実行計画の中でライフサイクル関連の記載が多く見られるようになった。参加事業者へのヒアリングでは、取得背景として、社内の取組としてではなく、対外的な評価等、外部要因が出てきている。活用の方向性が多様化しており、よりわかりやすい開示が求められているようだ。オリンピック・パラリンピックに向けた動きにも注視が必要。

海外動向としては、持続可能な開発に関する動きが顕著。欧州では環境フットプリント、建設製品に関する欧州規格や規制（CPR）等、LCA の政策活用が行われている。LCA 関連 ISO も複数改正・新規作成がすすむ。米国では EPEAT、LEED 等の環境評価制度の中で LCA の実施が評価される動きが今後も進むと予想される。

議題 1.2 に関し、委員からは以下の意見があがった。

- ・総括として、ここができて、ここができなかった、その課題は、という整理を行い、次期行動計画にどう反映してゆくか、整理検討してほしい。
- ・消費者向け WEB サイトができなかった理由を教えてください。

委員からの意見を受けて、事務局からは次の説明があった。

- ・EPEAT 等の企業インセンティブの働く BtoB 分野では件数の伸びがあった。BtoC、消費者向けの発信については WEB=プログラムの顔としてどう発信してゆくべきか悩み中であり、長期的なテーマであると考えている。

3.2016-2020 年度中期行動計画に関する行動計画案【諮問事項】

事務局より 2016-2020 年度中期行動計画案に関して説明が行われた。

欧米での EPD 活用の顕在化に対し、日本国内では多領域での LCA の活用は少なく、気候変動に重点が置かれている。これを踏まえ国内においては日本政府のエネルギー・温暖化対策関連政策に貢献することおよび、環境情報の「見える化」を通じた事業者の削減努力、消費者の理解促進に貢献するプログラムになることを目標とし、また国外においては日本企業の海外市場対応を支援し、

国際競争力向上に貢献するプログラムを目指すものとした。また、普及・推進・連携の方針と具体策が説明された。

事務局からの説明を受けて、委員から以下の意見があった。

- ・2015年までの行動計画で明らかになった課題と、今後の計画とを結び付けて、より具体的な計画にしてほしい。
- ・欧米の政策にかなり依存している印象を受ける。欧米の政策に乗ってゆくのもよいが、日本としての戦略を立てられるような活動になるとよい。
- ・途上国、新興国にどう対応してゆくか。情報交換をするというだけでなく、アジアを日本が主導してゆけるとよい。
- ・エコリーフ/CFPは製品のプログラムだが、社会情勢を見ていると、組織の全体を見る努力、またはその情報を盛り込むことを考えないと、行き詰まるのではないかと思う。
- ・統合化については、実現できると企業として効率が良くなるので、是非実現してほしい。
- ・事務機以外の業界は国際的なラベル取得に前向きではないというデータがあった。産業界からのニーズを再確認しながら中期計画の見直しをするとよい。
- ・2015年までの目標は実績との乖離が大きかった。現実的な目標を立てるのはよいが、今の目標では普及には遠い。
- ・環境ラベルは様々あるが、流通側からみるとターゲットとなる顧客は同じ人たちとなる。普及イベントは個々にやるよりも、まとめてくれるとよいと思う。
- ・消費者の立場からは、「環境ラベル」でひと括りにするよりも、特定のテーマで個々のラベルについて丁寧に説明した方がわかりやすい。
- ・エシカルラベル同士の協働について、積極的に議論を展開し、相乗効果をもたらしてほしい。

4.JEMAI 環境ラベル統合化に関して【諮問事項】

事務局よりエコリーフ/CFPの統合について説明が行われた。

データ収集から登録・公開までの範囲のプロセスを単一環境領域か複数環境領域かを問わず一体化し、共通プラットフォームとする。2017年4月からスタートし、3年程度の移行期間を設定するものとした。

事務局からの説明を受けて、委員から以下の意見があった。

- ・原単位の変更は特に中小企業には負担。フォローをしっかりとしてほしい。
- ・間違いなく、誰もが公平に、正しく使えるものになるか。動かしてみると課題が出てくると思うので、善処し、利用者全体にわかりやすいよう検討願いたい。
- ・電力、ガスの自由化でエネルギーを自社で作るところも出てくる。原単位をどうするか、どうやって検証するかが課題となる。大きく変化するところはきちんとチェックしておかないと、国際的な信頼が得られないので注意が必要である。
- ・今までのエコリーフから大きく変わることになるので、原単位の選択の仕方、幅の許容範囲等を検討してほしい。

委員からの意見を受け、事務局から以下の説明があった。

- ・主に原単位について意見をいただいた。プログラムのみならず、データベースをどう使ってゆくかは幅広い議論が必要。開発者とともに議論を深めてゆきたい。

以上